

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所ぐろーあつぷ高崎		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 4日		令和8年 3月 4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 4名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 4日		令和8年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達5領域(健康・生活/運動・感覚/認知・行動/言語・コミュニケーション/人間関係・社会性)を踏まえた個別支援計画に基づき、段階的な支援を実施している点。	アセスメント結果を基に具体的な短期目標を設定し、遊びや小集団活動を通して基本的な生活習慣の定着、コミュニケーションの拡大、社会性の育成を図っている。支援記録を活用し、月次で振り返りを行っている。	領域ごとの評価指標を整理し、支援効果の可視化を進める。外部専門職との情報交換や研修参加を通じて専門性の向上を図る。
2	保護者支援および家庭との連携体制を重視している点。	連絡帳や送迎時の対話により、当日の活動内容や児童の様子を具体的に共有している。必要に応じて個別面談を実施し、家庭での困りごとや対応方法について助言を行っている。	アンケート結果の分析を踏まえ、情報提供の方法や頻度を見直す。保護者向けのミニ講座や資料配布等、家庭支援の充実を検討する。
3	安全管理体制および構造化された環境設定を行っている点。	日々の安全点検を実施し、ヒヤリハット事例を記録・共有している。視覚的支援(スケジュール提示、絵カード等)を活用し、見通しを持てる環境づくりを行うことで不安軽減と行動の安定を図っている。	避難訓練の内容を具体化し、実践的な想定訓練を実施する。安全マニュアルの定期的な見直しを行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育プログラムの体系的整理および中長期的視点での評価が十分とは言えない点。	個別対応を重視する中で、年間を通じた発達の流れや領域別の達成状況の整理が十分でない部分がある。	年間計画および領域別プログラムの整理を行い、モニタリング様式の改善を図ることで評価の一貫性を高める。
2	関係機関(保育所・幼稚園・相談支援専門員等)との連携が十分に確立しているとは言えない点。	業務の優先順位の関係から、定期的な情報共有の機会が限定的となっている。	連携会議への参加や情報提供書の活用を通じて、関係機関との共有体制を計画的に整備する。
3	職員間の支援スキルおよび対応方法の均質化が課題である点。	経験年数や専門性の違いにより、関わり方や記録内容に差が生じる場合がある。	内部研修やケース会議を定期開催し、支援方針の共通理解を図る。支援マニュアルの整理および記録様式の統一を進める。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所くろーあつが高崎		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 4日		令和8年 3月 4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 4日		令和8年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づき、児童一人ひとりの発達段階や特性に応じた支援を継続的に実施している点。	アセスメント内容を踏まえ、具体的な目標設定を行い、日々の支援記録を通して達成状況を確認している。職員間でのケース共有を定期的に行い、支援方法の統一を図っている。	モニタリングの質の向上を目的に、評価指標の明確化を進めるとともに、外部研修への参加を通じて専門性の向上を図る。
2	保護者との情報共有および連携体制が概ね確立されている点。	各保育所及び学校連絡帳や送迎時の対面での報告に加え、必要に応じて個別面談を実施し、家庭での様子と事業所での状況を相互に共有している。保護者からの意見は職員会議で共有し、支援内容の見直しに反映している。	アンケート結果の分析を継続し、説明責任を意識した情報提供の工夫を行う。保護者参加型の行事や説明機会の充実を検討する。
3	安全管理およびリスクマネジメントに関する体制整備を行っている点。	ヒヤリハット事例を記録し、職員会議で共有・再発防止策を検討している。定期的な設備点検および避難訓練を実施し、緊急時対応マニュアルの確認を行っている。	訓練内容の実践性向上を図るとともに、記録の蓄積と分析を通じて未然防止の取組を強化する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動内容の体系化および長期的視点でのプログラム構成が十分とは言えない点。	日々の個別対応を優先する中で、年間計画に基づく体系的なプログラム整理が不十分となる場合がある。	年間・月間計画を明確化し、療育プログラムの目的や評価方法を整理することで、計画的な支援体制を構築する。
2	職員間の情報共有方法に一部ばらつきが見られる点。	口頭での引継ぎに依存する場面があり、記録様式や共有方法の統一が十分でない場合がある。	記録様式の標準化を進め、共有ルールを明確化する。定期的なケース会議を通じて情報の整理と支援方針の統一を図る。
3	地域資源との連携や外部機関との協働体制が限定的である点。	個別支援及び計画的集団行動訓練の優先により、関係機関との情報交換や交流機会の確保が十分に行えていない。	相談支援専門員や学校等との連携会議への参加を継続し、情報共有の機会を計画的に設ける。地域行事や関係機関との協働活動についても可能な範囲で検討する。